

広報
第15号

上野東部だより

2010年3月15日 発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘本町1681-8
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999

異世代交流会

1月23日 白鳳会館（上野車坂町）において

2月6日 本町公民館（緑ヶ丘本町）において

おもちつき





わが町 服部団地

～探訪シリーズ 3～



大きな橋、川を境に旧服部町と服部団地に分かれています。

◇ 服部団地の生い立ちは…

- | | |
|----------|-----------|
| 昭和47年2月 | 雇用促進住宅第一 |
| 昭和49年7月 | 上野地区教職員住宅 |
| 昭和52年5月 | 県営住宅1棟 |
| 昭和53年5月 | 県営住宅2棟 |
| 昭和60年12月 | 雇用促進住宅第二 |
| 平成2年2月 | 合同宿舎上野住宅 |



ちょっと市街地より外れた場所。当時は住宅の周りに田んぼがあるのではなく、田んぼの中に住宅がありました。

平成9年にショッピングセンターアピタが開店したのをきっかけに、一戸建て住宅が多くなり、蛙の声を聞くこともなくなりました。白鳳通りへ歩いて1分、服部団地は伊賀市の僻地から一等地へと変身しました。

◇ 心のふれあうまちづくりを…

服部団地は、子どもの数が大変多く、朝、学校へ行くときの子どもの声が賑やかです。

自治会では、老人クラブのメンバーが野菜や花をつくり、子どもたちとのふれあいを大切にしようと、育てた野菜を使って四季折々に食事会を開いています。また、お正月には鏡開きをして住民を楽しませてくれています。

ともすれば、寄り合い所帯といわれがちな団地ですが、ゴミ分別の意識を高めるために、年4回ゴミ袋の配布を実施し、年3回の草刈りの出合いには、全員で作業を行って顔見知りになり、向こう三軒「いざ！」というときに助け合える、見守りができる、優しい服部団地になりつつあります。

服部団地自治会長 辻井 真理子



四季折々の食事会では老人クラブが子どもたちを招待しています

もう
行つた?

みんなで集えるふれあいの場

上野農人町

コミュニティー広場

農人町に広場が完成

昨年11月15日、町民の期待に応えたシニア健康遊具や子どもたちの遊具を配置した「上野農人町コミュニティー広場」が完成し、お披露目の集いを開催しました。

集いには、老若男女五十名余が集まって、ジュースで乾杯し、小学生1、2年生が滑り台の滑り初めで祝いました。

お年を召した方は、「どんねんして使うの?」と子どもたちに尋ねながらスプリングバーにぶら下がったり、背伸びしベンチでは「心地工わ」と気分良く伸びのびと。腹筋運動に挑戦する猛者も。

そのほかにも、幼児用スプリング遊具2基が備え付けられています。このような施設は市街地では初めてとあって、農人町自治会では「いつも開放していますので、町内外を問わず多くの方に利用してもらえれば」と語っています。場所は愛染院の筋向いです。

市街地における高齢化率(65歳以上人口)が42%と、高水準の上野農人町では、子どもたちに親しまれてきた児童公園の遊具が老朽化してきたのを機に、町民の要求、要望を基に計画し、原資は宝くじのコミュニティー助成事業から250万円の助成を得て完成させました。

冬晴れの暖かい日は、子どもたちの声が聞こえ、おじいちゃんやおばあちゃんと孫たちとの微笑ましい姿を見かけられる今日この頃です。

また、「春になったら、いきいきサロンもここでやったら工工なあ」とサロンの会長も提案しています。暖かくなってくるに従って一層賑々しくなってくることでしょう。

手記：杉本秀行



児童公園が生まれかわって
子どもたちとおじいちゃん、
おばあちゃんたちとの
ふれあいの楽しい広場に
なりました。



しろはと幼稚園跡に 東部地区市民センター(上野東部公民館)の 移設を!

去る11月15日、市長と東部地域住民協議会の懇談会が開かれました。これに先立ち11月4日に市長に対して重点2項目の要望書を提出し、懇談会の席上、表記について自治協役員が主旨説明をし、実現を強く要望しました（下記に全文掲載）。

なお、重点要望のもう一つは、「県立上野商業高校跡の建物及び土地を市が買い取り、教育・文化・スポーツの発信基地として市民に開放されること」。他にも白鳳高校開設に伴う通学路整備、合併浄化槽による下水処理の整備促進、集会所建設補助金の執行、北部地区に公民館建設、服部地区に自治会立ち上げなど市長に要望しました。

「市立しろはと幼稚園跡の建物及び土地を 東部地区市民センター(上野東部公民館)に」

〈具体的な内容〉

東部地域住民自治協議会及び東部地区市民センターの現状は、市街地としては広大な地域を範囲とし、かつ、平成21年9月末現在人口11,863人、5,263世帯を有しています。これらの状況は周知の通り支所別（旧上野市を除く合併前自治体）に比べてみても、青山支所11,556人、4,089世帯、阿山支所7,860人、2,566世帯です。伊賀市全人口及び全世帯数に対しても当自治協議会は、それぞれ人口で11.8%、13.4%の占有率となっている巨大組織です。

他方、近年はライフワークの変化も相まって各種サークル活動等の増加、住民自治協議会活動を活発にすめるための会議等が増え、今後もこれらの利用が増えることが見込まれる中で会議確保に余裕がなくなることも目に見えています。このままでは、事務所が極めて狭いことも含めて市民センターの役割を十分果たせな



くなることは明白です。

また、駐車場がないという今日では考えられない状況もあります。

さらに、階段の段差がきつくる年寄りや、下肢が不自由な方は難儀し、車椅子利用者は玄関にスロープがあるものの事務所やヘルストロンの利用以外は使用不能です。

すでに東部地区自治会連絡協議会として東部地区市民センターの新築移転を要望し続けてまいりました。その後発足した東部地域住民自治協議会としても同様の要望を継続してきましたが、いっこうに実現する見通しが立っていません。

この状況を解決する今日的手段としては、市立しろはと幼稚園が平成22年3月末をもって閉園されますので、園舎を含めこの跡地を利用し、東部市民センターを移転することが最も望ましいと考えられます。

その理由としてしろはと幼稚園は、イ）園舎は、耐震性を有していて、多くの利用価値のある施設内の構造となっています。現在ある主な部屋及びこれらを市民センターとして活用していく点では、次のような利用方法が考えられます。

職員室1室→事務所

保育室6室→会議室、多目的室

遊戯室（大）→多目的室

図書室（小）1室

台所（湯沸し室）1室

倉庫1室、園舎外倉庫1棟 これらは現状で利用口) 冷房装置設置、トイレの改修、事務机以外の机、椅子等備品什器の補充及び車椅子使用者のための園舎入り口へのスロープ設置(道路から園庭への入り口にはスロープあり)など若干の補修、改造等で済みます。そのため移転新築とは比較にならないほど必要経費が抑えられます。

ハ) 駐車場については、上野農人町の旧玉岡邸(約990m²)が平成20年度に市に寄贈されていますので、ここを専用駐車場として利用する方法を取れます(要舗装)。

二) 園庭の遊具をそのまま残すことにより、こ

どもの遊び場として利用できます(現在、卒園児童や入園前の親子連れ、家族連れがよく利用しています。なお、年間2回の保守点検実施)。

ホ) 災害時、近隣の第一次避難場所として引き続き利用できます。

ヘ) 地理的にみると中心部に近い場所となり、全体からいえば利用者の利便性が増します。

以上のように、市財政逼迫の今日、焦眉の住民要求を解決する最も優れた方策と考えます。これら現状と私どもの提案を踏まえ、地区を希望を早期に実現されることを切望いたします。

文責: 杉本秀行

思い出いっぱい! 76年 しろはと幼稚園閉園記念式典



上野町立第一幼稚園でスタートしたしろはと幼稚園の閉園記念式典が、3月24日の卒園式に先立つ2月27日に開催されました。

式典は、園児と保護者の参加のもと、実行委員長、教育長、市議会議長の挨拶がありました。また、歴代の園長先生や近隣自治会長などが来賓として招かれていました。

なかでも、園のあゆみがスライドで映し出されると、昔日を思い出し「あそこにトンネルがあったなあ」といった声も聞こえ、今年度の運動会など多くの催が紹介されると、紹介するPTA役員の声も、園児の大歓声でかき消してしまったことがたびたびで、保護者手づくりならではの



式典でした。

中森園長先生は、園の紋章にある「KとG」は、キンダーガーデン、子どもの園、「昭和初期からこのような文言を表し、時代を先取りしていた」と園の誇りを語り、また、園児の「友だちともいっぱい会えて、しろはとは宝島やな」の言葉を紹介し、ま



さに園を一言で言い表していると感無量になっていました。そして、地域とのつながり、地域とともに歩んできた園に別れを告げる寂しさと、新たな桃青の丘幼稚園への出発を期待していました。

取材: 杉本秀行



「東部地域トイレ」
オープニングイベント開催
4月1日(木)午前11時~12時・広小路にて

広小路駅隣に公衆トイレが完成します。近隣自治会、商店会による請願の個人署名運動や東部自治協の請願による念願がかないました。多くのみなさんと竣工とともに祝いたいものです。

はるかなる大陸の音色

“馬頭琴”



子ども達の心に
響きました!
馬頭琴の
美しい音色。

上野東小学校に、駐日モンゴル国大使館からモンゴルの伝統的な弦楽器の「馬頭琴」が贈呈されたと聞き、谷口修一校長先生のお話を伺いました。

「とても綺麗な音色で、子ども達も聞き入ってましたよ。」

モンゴル・ウランバートルのシャブ小学校で聖路加国際病院理事長、日野原重明さん制作のビデオ「十歳のきみへ いのちの授業」を用い、東小出身の森剛さんが授業を行ったのがきっかけで交流が始まりました。大モンゴル建国800周年の記念にモンゴル国政府から直々に馬頭琴を「友好の証」として贈られたそうです。

11月24日に全校児童611人が体育館に集まってモンゴル大使館の一一行を歓迎しました。モンゴルの民俗衣装“ペール”を着た奏者パトオーチルさんが、馬頭琴で「タやけ小やけ」や「あかとんぼ」など、なじみのある曲を演奏し、その美しい音色に子ども達も「きれいで心に響く音だった。」と感動していたそうです。

今では、シャブ小学校の子ども達と給手紙での交流も行っており国境を越えた友情を深めています。

「（モンゴル出身の）朝青龍閣と日馬富士閣の手形とサインも頂いたんですよ！見ますか？」と谷口校長先生も満面の笑みを浮かべて、私に見せてくれました。子ども達の喜びがどれ位のものだったのかが、校長先生の笑顔の奥から伝わってくる様な感じがしました。

取材：東 加奈



楽しかったね

ぽっぽ会



ボランティアグループ「ぽっぽ会」が昨年11月18日に西部公民館で劇を披露。

今回の劇は「赤ずきん」と、食べ物の好き嫌いをテーマにした「なんでも食べられるよ」の2作品です。

お話が進むにつれて、思わず手作りの小道具のおにぎりや人参を触りに近づいていく子どもの姿。「赤ずきん」のオオカミが出てくるシーンでは、あまりの迫力に「きゃー!!」と泣き出したり、舞台から遠く離れて、お母さんにしがみつく子どもの姿も。大人の私も、つい面白くていつの間にか一所懸命見てしまいました。

最近はTVやビデオで『リアル』ではない映像に“当たり前さ”を感じている私達がいると思います。子ども達が感動や息づかいを感じられる「近い距離」、そして『リアル』な動きと面白さを体感出来る「ぽっぽ会」の劇は、今の子ども達にとって本当に貴重だと思いました。



「ぽっぽ会」は、しろはと幼稚園の学芸部（保護者のクラブ）の創立当時の部員が子どもの卒園後に設立し、今年で15年目を迎えます。子育て支援グループや、保育園、幼稚園などを中心に活動し、年間5～6回、大型紙芝居やお芝居を通じて交流をはかっています。現在、メンバーは8名程。

「是非、地域の若いお母さん達にも参加してもらって一緒に楽しんでやりましょう！新メンバー募集集中です！！！」と代表の薮中さん。臨時やお手伝いでもOK！ 子ども達のために、自分のために（！？）楽しくわいわいやりましょう！

取材：東 加奈

●連絡先：薮中さん
電話090-7694-7665

あなたの力を 住民自治協議会へ



AED(自動体外式除細動器)を設置しました。

東部地域住民自治協議会では、住民のみなさんの公的な活動にご利用いただくために、新しくAEDを設置しました。

各自治会で活動されている老人会、児童福祉会または各種スポーツ大会、旅行等にご利用ください。

ご利用いただく場合、電話等で確認の上、申し込み用紙に必要事項を記入してください。（※普通救命講習修了証の取得者名必須）

但し、個人や企業の営業には貸出できません。

型式 AED2100(日本光電工業株式会社)
機器の特徴（音声案内に従えば操作は簡単）



- ・スイッチを切り換えるだけで、
1~8歳未満の小児から成人にも使用できます。
- ・胸骨圧迫（心臓マッサージ）のテンポを音でガイド。

不妊の力が…主婦の力
ひよどりの為、子どもたちにすこしないと
うらやましいです。今年度最終号となり
ました。ありがとうございました。

(西田
直美)

1. 総務広報
2. 健康福祉
3. 環境保全
4. 教育文化スポーツ
5. 防災防犯交通安全
6. 人権啓発
7. 産業振興まちづくり

の七つの実行委員会（部会）が活動しています。

自分たちの住む地域をより住みやすくするために、平成22年度から新たに実行委員（部会員）になって力を貸してください方を次の方法で募集します。

- ① まちのために何かやってみたいと思われる方
- ② 自治協連関連組織の長など從来からの継続、推薦された方
- ③ 各実行委員会から推薦された方
- ④ 自治会会长から推薦された方

※②～④で推薦された方は、是非ともお引き受けください。



編集後記